

A-1 地域コミュニティの実態に関する研究

「小さなまちの拠点」に関する調査研究 活動報告

古賀 奈穂

せたがや自治政策研究所主任研究員

1. 目的

本研究は、せたがや自治政策研究所中期運営方針にある「A.自治体経営のあり方に関する研究」プロジェクト A-1 地域コミュニティの実態に関する調査研究としておこなったものである。

自治体戦略 2040 構想研究会第二次報告（2018）や第 32 次地方制度調査会答申（2020）を受け、区は「自治体経営のあり方研究会<sup>1</sup>」を設置し、報告書<sup>2</sup>を取りまとめた。前年度の研究では、同報告書の提言の一つとして取り上げられた「小さなまちの拠点」について、拠点の形成の意義及び拠点の持続可能な運営をめぐる自治体の支援のあり方について、論点を整理した<sup>3</sup>。

今年度は昨年度の研究をふまえ、区の多様なコミュニティ資源を捉えるための基礎資料とするため、地域の居場所となる区内の「小さなまちの拠点」のデータベース整備に取り組んでいる。本報告では、まずデータベース構築の意義および作成手順を記述する。次にデータベース活用事例として、拠点が運営されている施設や場所、いわゆる物理的な拠点＝「場」に着目し、公共施設、宗教施設、飲食店、個人宅等で分類した GIS によるマッピングについて紹介したい。

2. 小さなまちの拠点データベースの整備

(1) データベースの作成

近年、「官民データ活用推進法」（2016）や EBPM 推進委員会の設置（2017～）、「自治体 DX 推進計画」（2020）の策定など、現状把握や課題分析による政策立案（EBPM）を目的としたデータ利活用をめぐる国の動きが本格化している。こうした動向を受け、世田谷区

---

<sup>1</sup> 区は平成 30（2018）年に「世田谷区自治体経営のあり方研究 PT（プロジェクトチーム）」を設置し、今後中長期的に取り組むべき事項について総合的・横断的な議論を行った。プロジェクトチームの成果に基づき、若手職員を中心とした「自治体経営のあり方研究会」を設置した。座長は牧原出東京大学先端科学技術研究センター教授。

<sup>2</sup> 令和元年度せたがや自治政策研究所研究・活動報告「せたがや自治政策 vol.12」（2020）p40—54 を参照のこと。

<sup>3</sup> 令和 2 年度せたがや自治政策研究所研究・活動報告書「せたがや自治政策 vol.13」（2021）p13—41 の「世田谷区における『小さなまちの拠点』の形成」を参照のこと。

含めて多くの自治体が EBPM を推し進めるとともにエビデンス＝「証拠」となるデータベースの整備に取り組んでいる。

今回取り扱う小さなまちの拠点のデータベースは、区の多様なコミュニティ資源を捉え、各所管課の施策の基礎資料とすることを目的としている。データベースは後述する GIS によるマッピングの基礎データになるほか、各拠点を項目ごとに分類し現状把握・分析することが可能となる。また複数の所管課が保有するデータを集約することにより、庁内での横断的な活用も期待できる。

なお小さなまちの拠点データベースの整備にあたっては、総務省情報流通行政局の「地方公共団体におけるデータ利活用ガイドブック Ver.2.0」（2019）を参考に、以下の手順でデータを収集し整理した。

- 1) 「小さなまちの拠点」の定義は多様なものが考えられるが、データベース作成のため、①地域で②行政主導ではなく③誰もが利用でき④新たなコミュニティの創造や地域包括ケアの居場所的な役割が期待できる場所、と定義する。
- 2) 「小さなまちの拠点」に該当する区の活動（①サロン・ミニデイ・子育てサロン、②子ども食堂、③認知症カフェ、④地域共生のいえ、⑤空き家等地域貢献活用事業、⑥おでかけひろば・おでかけひろばワークスペース）について抽出する（表 1）。
- 3) ①に該当する 6 つの活動、延べ 969 の活動拠点について、ホームページやハンドブック、関係所管課からの情報収集により、Excel によるデータベース<sup>4</sup>を作成する（表 2）。
- 4) データベースの項目については、拠点の活動状況の推移や課題把握の分析の起点となるような項目を検討し、①活動内容、②活動場所、③場所種別、④運営法人、⑤活動場所の住所、⑥活動日、⑦時間、⑧参加費、⑨地域、⑩活動回数、⑪活動開始日、⑫活動終了日、⑬主な利用者、⑭連絡先（電話番号）、⑮連絡先（メールアドレス）を共通の項目として整理する。
- 5) なお活動場所が複数にわたる場合、たとえば、活動場所が 3 か所あり、場所によって活動日が異なる場合などは、活動場所ごとにデータを作成し、Excel では 3 つの拠点データとして登録。

---

<sup>4</sup> オープンデータ利活用に向けては、二次利用がしやすいよう機械判読性が高い形式でのデータ作成が求められており、たとえば、Excel よりも非独占の形式で公開されている CSV での作成がのぞましいとされる。

表1 小さなまちの拠点データベースの対象とする活動 (2021年6月10日時点)

拠点情報	区の事業(活動)名	データ	所管課
① サロン・ミニデイ・子育てサロン(ふれあい・いきいきサロン数:569、子育てサロン数:93、支えあいミニデイ数:74団体(平成30年度実績))	地域支えあい活動支援事業	せたがや福祉団体情報サイト(2021年6月11日時点)	社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
② 子ども食堂(世田谷:13か所、北沢:6か所、砧:7か所、玉川:10か所、烏山:8か所)	子供食堂推進補助金	せたがや子ども食堂情報パンフレット(社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会)(2020年2月発行)	社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会
③ 認知症カフェ(37か所)	認知症カフェ開設補助金	せたがや認知症カフェハンドブック(2020年4月発行)	高齢福祉部 介護予防・地域支援課
④ 地域共生のいえ	地域共生のいえづくり支援事業	一般社団法人世田谷トラストまちづくりHP(2021年12月1日時点)	一般財団法人世田谷トラストまちづくり
⑤ 空き家等地域貢献活用事業(13か所)	空き家等地域貢献活用支援事業	一般社団法人世田谷トラストまちづくりHP(2021年12月1日時点)	一般財団法人世田谷トラストまちづくり
⑥ おでかけひろば・おでかけひろばワークスペース	世田谷区おでかけひろば事業	おでかけひろば・ほっとステイガイドブック	子ども・若者部 子ども家庭課

表2 小さなまちの拠点データベース(一部抜粋)(2021年6月10日時点)

活動名・活動内容	活動拠点	拠点種別	機能	運営法人	活動内容	活動場所住所	地域	登録日	休止日	主な利用者	連絡先
「こどもとわたし」“元気の日”	桜新町ふれあいルーム	ふれあいルーム	子育てサロン	任意	お茶とおしゃべり、音楽・歌、会食(おにぎりカフェ、音楽を中心に交流)	世田谷区桜新町1-30-14	玉川	2012/06/01		子育て中の方	
「楽多の会」らくだサロン	デイホーム玉川田園調布1階交流スペース	福祉施設	サロン	任意	お茶とおしゃべり、体操(健康体操)	世田谷区玉川田園調布2-16-2	玉川	2004/05/11		高齢者	
「楽多の会」らくだサロン	奥沢地区会館	地区会館	サロン	任意	お茶とおしゃべり、手芸	世田谷区奥沢7-35-4	玉川	2004/05/11		高齢者	
2 2 貯筋北鳥山	北鳥山地区会館	地区会館	サロン	任意	お茶とおしゃべり、体操、レクリエーション	世田谷区北鳥山9-25-26	烏山	2012/04/06		高齢者	
4 丁目パステルの会	個人宅	個人宅	サロン	任意	お茶とおしゃべり、手芸、レクリエーション、会食(絵画※隔月第2月曜:お茶と手芸を楽しむ会(サクランボの会))	世田谷区奥沢4	玉川	2012/09/27		高齢者	
alulu	みんなのひろばalulu	店舗	子育てサロン	任意	お茶とおしゃべり、読み聞かせ、学習支援(絵本の読み聞かせ・食育相談)	世田谷区北沢1-47-16 旧相模屋精米店跡	北沢	2020/01/06		子育て中の方、その他	
CORO CORO CLUB	下馬ふれあいルーム	ふれあいルーム	子育てサロン	任意	お茶とおしゃべり、レクリエーション、読み聞かせ(手遊び)	世田谷区下馬3-14-9	世田谷	2018/03/12		子育て中の方	
DSひまわり	カトリック松原教会	教会	サロン	任意	お茶とおしゃべり、レクリエーション(視覚障害者と共に社交ダンスを学ぶ)	世田谷区松原2-28-5	北沢	2013/05/02		高齢者	
Fresh 成城 Seven	祖師谷支えあいルーム	支えあいルーム	サロン	任意	お茶とおしゃべり、ウォーキング、パソコン(高齢者の親睦・時には散策)	世田谷区祖師谷3-21-1	砧	2011/08/09		高齢者	
hatsuratsu (ハツラツ)	ロイヤル入居相談室	集合住宅	サロン	任意	お茶とおしゃべり、体操(フィットネス(簡単な体操・筋トレ))	世田谷区玉川1-15-6 二子玉川ライズプラザモール202	玉川	2020/04/08		高齢者	
mamacocco (ママッコ)	チャームプレミア深沢 B1 研修室	集合住宅	子育てサロン	任意	お茶とおしゃべり、レクリエーション、学習支援(アロマセラピー・ママと子どもの健康やかな心と体を育む講座)	世田谷区深沢7-4-1	玉川	2019/05/01		子育て中の方	

注) 現時点で不明な情報は空欄としている。

(2) 追加調査とデータベースの更新

データベースを作成した後は、補足の調査を行うなどしてデータベースの充実を図り、定

期的に情報更新をしていく必要がある。今回作成したデータベースはあくまでも「小さなまちの拠点」の定義に該当する可能性がある拠点についての情報であり、区内の多様なコミュニティ資源を網羅的に把握するという意味では十分なものではない。また前年度の研究でも整理したとおり、自治体の支援の方向性を検討するにあたっては、拠点の立ち上げのきっかけや運営状況、活動の推移、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、活動の終了理由など拠点そのものの実態把握を行う必要があるだろう。

したがって、まず各所管課で把握する「小さなまちの拠点」に該当する可能性がある拠点について、網羅的な調査を行う。その調査結果に基づき、各拠点を対象とした実態把握調査やヒアリングを行い調査結果を補う必要がある。

作成したデータベースはその後も定期的な調査を実施することで、データにリアルタイム性を持たせ、適切な時期や頻度で更新していくことが望ましい。

### 3 データベースの活用事例\_\_GISによる「場」のマッピング

#### (1) 近年のGIS活用の動向

さて、データベースを整備すると、データベースをもとに様々な情報を整理し分析することが可能となる。ここでは活用事例の一つとして、GISによるマッピングの事例を紹介したい。

GISは地理情報システム（Geographic Information System）の略称で、地図上にさまざまな情報を重ね合わせたり、分析したりすることができるシステムをいう。平成23（2011）年の阪神・淡路大震災を契機として、各組織が保有する地理空間情報を共有できなかったという課題から、1995年9月に地理情報システム（GIS）関係省庁連絡会議が設置され、GISの普及啓発へ向けた取り組みが開始された。その後「地理空間情報活用推進基本法」（2007）や「地理空間情報活用推進基本計画」（2008）の策定など、国によるGISの活用推進が図られてきた。こうした国の動きもあり、自治体においても都市計画や防災、観光、防犯、福祉など多様な分野においてGIS活用に取り組んでいる。

世田谷区では、2014年に「せたがやiMap<sup>5</sup>」のスマートフォン版の提供を開始した。さらに2015年に「区内地理情報システム<sup>6</sup>」を導入し、職員を対象としたGIS研修を行うなど区内におけるGIS活用を図っている。さらに2017年に世田谷区GISオープンデータサイトや、ストリートマップの公開を開始するなど、区民向けのGIS公開をすすめている。このように、各所管で保有しているデータを横断的に集約し整備することにより、GISをはじめ、区内での活用が進むほか、オープンデータとして公開することで、区民や民間企業による活用が期待される。

---

<sup>5</sup> <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/010/001/d00125457.html>

<sup>6</sup> <http://gisap00/AigsSetagaya/Main.aspx>

(2) 小さなまちの拠点の「場」の整理

以上述べてきた近年の GIS 活用の動向を踏まえ、本節では作成中の小さなまちの拠点データベースをもとに、GIS によるマッピングを試みた。なお、認知症カフェなど各活動別の地図はすでにリーフレットやホームページに地域別に掲載され広く活用されているため、ここでは拠点が運営されている施設や場所、すなわち物理的な拠点＝「場」に着目した。

小さなまちの拠点が運営されている「場」は様々なタイプがあり、いわゆる区民集会所などの区民利用施設や福祉施設以外にも、近年では飲食店や個人宅を地域に開くケースも増えている。

「場」について橘（1997）は、場の許容性の幅が場に参加する際の心理的アクセシビリティが大きな影響を受けると述べており、アクセシビリティが高いことはコミュニケーションの機会にアクセスしやすく、意図しない出会いや軽いコンタクトなど、その場の状況に応じた関わり合いを可能にするとし、公共施設での場は場の許容性が低いことを指摘している。特に新型コロナウイルス感染症の影響下では孤立化防止や精神面でのケアの需要が高まる中、インフォーマルな居場所の重要性が改めて認識された。

そこでデータベースに基づき「場」について、施設種別、活用、施設内容、施設数、主な活動で整理した（表 3）。

表 3 小さなまちの拠点が運営されている「場」の一覧

施設	活用	施設内容	施設数	主な活動（カッコ内は活動数）
公共施設	区民センター等の活用	地区会館、区民集会所、区民センター	32	サロン（78）、子育てサロン（10）、ミニデイ（8）、認知症カフェ（2）、子ども食堂（3）
公共施設	福祉施設の活用	高齢者施設、障害者施設	55	サロン（49）、認知症カフェ（17）、ミニデイ（5）、子育てサロン（5）、子ども食堂（3）
公共施設	学校の活用	小学校、中学校	9	サロン（12）、ミニデイ（3）、子育てサロン（3）
公共施設	出張所・まちづくりセンター	活動フロアー	8	サロン（15）、子育てサロン（1）
公共施設	子ども関連施設	保育園、児童館など	13	おでかけひろば（9）、サロン（9）、子ども食堂（1）
公共施設	公園・広場	公園、広場など	13	サロン（5）、おでかけひろば（2）、子育てサロン（2）、ミニデイ（1）
公共施設	地域支えあい生活拠点	ふれあいルーム、ふれあいの家	21	サロン（169）、子育てサロン（31）、ミニデイ（31）、子ども食堂（8）、認知症カフェ（1）
公共施設以外	宗教施設の活用	神社、寺、教会	21	サロン（17）、子ども食堂（3）、おでかけひろば（1）
公共施設以外	個人宅の活用	個人宅、空き家	85	サロン（33）、地域共生のいえ（23）、空き家活用（8）、子育てサロン（6）、ミニデイ（4）、認知症カフェ（3）、子ども食堂（4）、おでかけひろば（3）、若者の居場所（1）
公共施設以外	大学の活用	大学	1	サロン（1）
公共施設以外	集合住宅の活用	マンション、アパート、団地など	41	サロン（44）、ミニデイ（5）、子育てサロン（5）、認知症カフェ（4）、子ども食堂（2）、おでかけひろば（1）
公共施設以外	町会・自治会の施設	町会会館、町会事務所、自治会館、集会所など	18	サロン（14）、ミニデイ（8）、子育てサロン（3）
公共施設以外	飲食店などの店舗	飲食店・カフェ、金融機関、医療機関など	57	子ども食堂（20）、おでかけひろば（12）、サロン（11）、認知症カフェ（7）、ミニデイ（2）、地域共生のいえ（1）、空き家活用（1）

(3) アドレスマッチングサービスによる「場」の位置情報取得

GIS による「場」のマッピングを行うに当たっては、「場」の位置情報（経度及び緯度）の取得が必要である。位置情報の取得方法としては様々な方法があるが、ここでは東京大学間情報科学研究センターの CSV アドレスマッチングサービス<sup>7</sup>を紹介する。

<sup>7</sup> アドレスマッチングサービスとは、住所・地名フィールドを含む CSV 方式 データにア

アドレスマッチングとは、住所を含んでいるデータを GIS で扱うために、緯度経度のよう  
な数値による座標値を与える処理のことで、厳密には「アドレスジオコーディング」と呼ば  
れることもある。アドレスマッチングは、それぞれのレコードの住所部分を見て、地図から  
該当する住所を見つけ、その座標値をレコードに追加するという処理を繰り返すことで実  
現できる（同 HP）。ジオコーディング処理を行った後の CSV ファイルは表 4 のとおりで  
ある。

表 5 小さなまちの拠点が運営されている「場」のジオコーディング（一部抜粋）

col0	col1	col2	fx	fy	col3	LocName	iConf	iLvl
歌林宅	サロン	さえざりサロン	139.59531	35.63675	東京都世田谷区成城3-11-28	東京都/世田谷区/成城/三丁目/1 1 番	5	7
六所神社・祖師谷公園	サロン	給田歩こう会	139.59103	35.67015	東京都世田谷区給田	東京都/世田谷区/給田	5	5
六所橋区民集会所	サロン	赤堤はなみずきの会	139.64351	35.65755	東京都世田谷区赤堤2-10-13	東京都/世田谷区/赤堤/二丁目/1 0 番	5	7
用賀小学校	子育てサロン	おはなしランド	139.62653	35.63589	東京都世田谷区上用賀6-14-1	東京都/世田谷区/上用賀/六丁目/1 4 番	5	7
用賀区民集会所	認知症カフェ	フェロー フィーリング	139.63286	35.62678	東京都世田谷区用賀4-10-6	東京都/世田谷区/用賀/四丁目/1 0 番	5	7
用賀ふれあいルーム	サロン	かわせみの会	139.62967	35.62953	東京都世田谷区用賀4-38-16	東京都/世田谷区/用賀/四丁目/3 8 番	5	7
羽根木公園プレーパーク	おでかけひろば	そらまめハウス	139.65482	35.65751	東京都世田谷区代田4-38-52	東京都/世田谷区/代田/四丁目/3 8 番	5	7
諧林招	地域共生のいえ	諧林招	139.62302	35.65248	東京都世田谷区船橋3-12-3	東京都/世田谷区/船橋/三丁目/1 2 番	5	7
友愛ホーム	ミニデイ	ミニデイきぬた	139.61348	35.63593	東京都世田谷区砧3-9-11	東京都/世田谷区/砧/三丁目/9 番	5	7
優っくり村 喜多見	認知症カフェ	かふえ☆優っくりずむ	139.60059	35.62524	東京都世田谷区喜多見3-10-15	東京都/世田谷区/喜多見/三丁目/1 0 番	5	7
北沢五丁目町会会館	子ども食堂	北五食堂	139.66927	35.67042	東京都世田谷区北沢5-74-4	東京都/世田谷区/北沢/五丁目	5	6
保育室SUKUSUKU	子ども食堂	うめ・ゆめ 子ども食堂	139.65402	35.65382	東京都世田谷区梅丘1-8-9	東京都/世田谷区/梅丘/一丁目/8 番	5	7
中町ふれあいの家	認知症カフェ	ふれあいカフェなまち	139.64223	35.61998	東京都世田谷区中町5-19-2	東京都/世田谷区/中町/五丁目/1 9 番	5	7
池尻地区会館	子育てサロン	S A Y	139.68228	35.6466	東京都世田谷区池尻2-3-11	東京都/世田谷区/池尻/二丁目/3 番	5	7

注：表中の fx は経度、fy は緯度

#### (4) GIS ソフトの MANDARA よるマッピング

上記により「場」の位置情報（経度及び緯度）を取得すると、GIS ソフトによりマップの  
作成を行うことができる<sup>8</sup>。まず小さなまちの拠点が運営されている「場」、延べ 969 地点の  
地図上への取り込みを行った。

ドレスマッチング処理を行い、緯度経度または公共測量座標系の座標値を追加するもの。  
サービスで座標値を追加したファイルを読み込むことにより、地図を作成したり、様々な  
空間解析を行うことが可能となる（東京大学空間情報科学研究センター CSV アドレスマッ  
チングサービス HP [geocode.csis.u-tokyo.ac.jp](http://geocode.csis.u-tokyo.ac.jp)）。

<sup>8</sup> マップ作成の詳細は「フリー GIS ソフト MANDARA パーフェクトマスター」（谷 2018）  
を参照されたい。

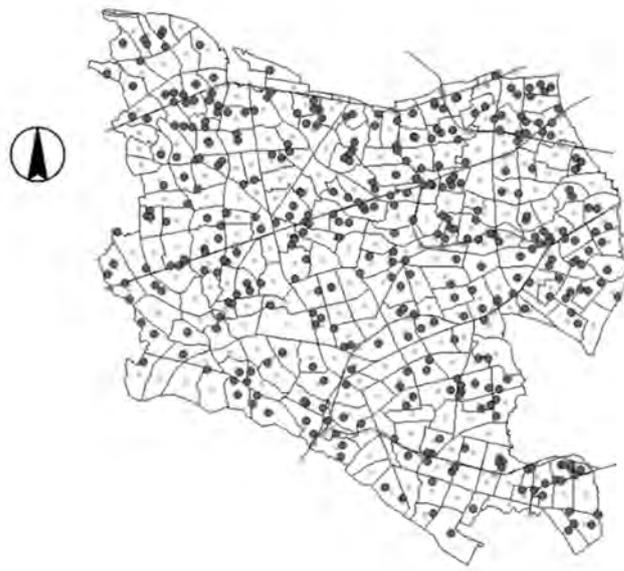


図 1 小さなまちの拠点が運営されている「場」(のべ 969 地点)

注：活動場所が「未定」「希望の場所」「観光地など」のケースは含めない。

① 公共施設 (区民センター、学校、出張所・まちづくりセンター)

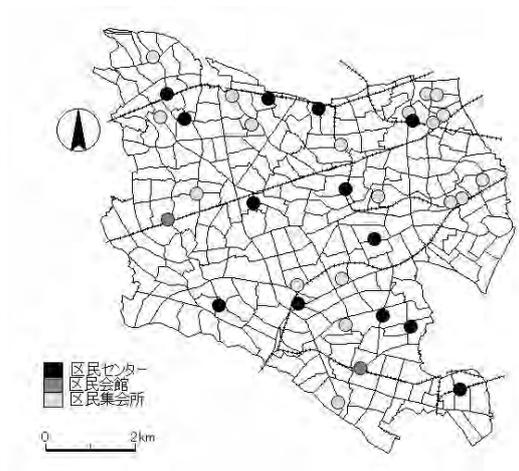


図 2 区民センター等の活用 (地区会館、区民集会所、区民センター)

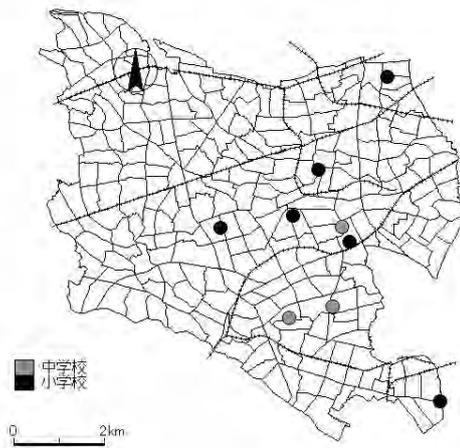


図 3 学校の活用

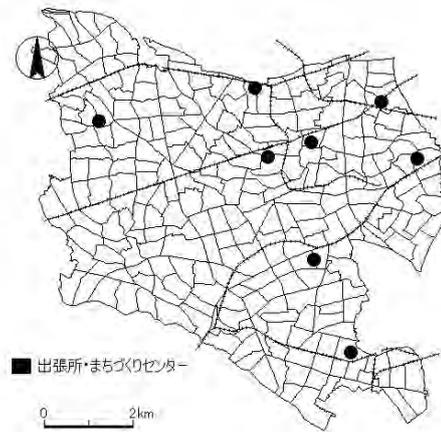


図 4 出張所・まちづくりセンターの活用（活動フロアなど）

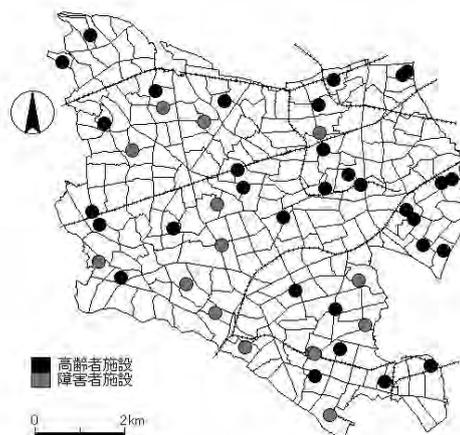


図 5 福祉施設の活用（高齢者施設、障害者施設）

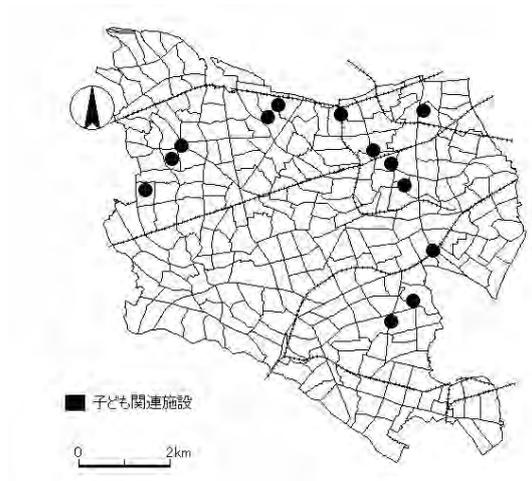


図 6 子ども関連施設の活用（保育園、児童館など）

- ② 公共施設以外（地域支えあい活動拠点、町会・自治会、宗教施設、集合住宅、個人宅）

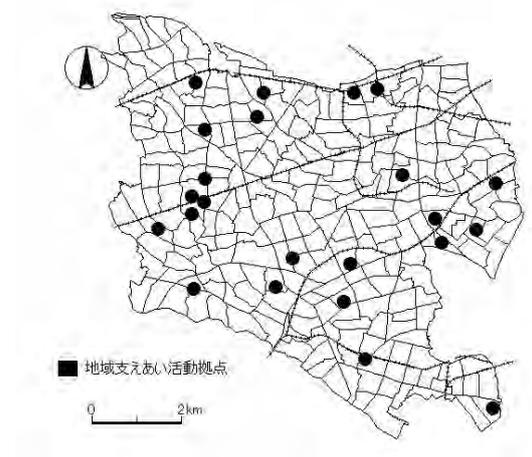


図 7 地域支えあい活動拠点の活用（ふれあいルーム、ふれあいの家）

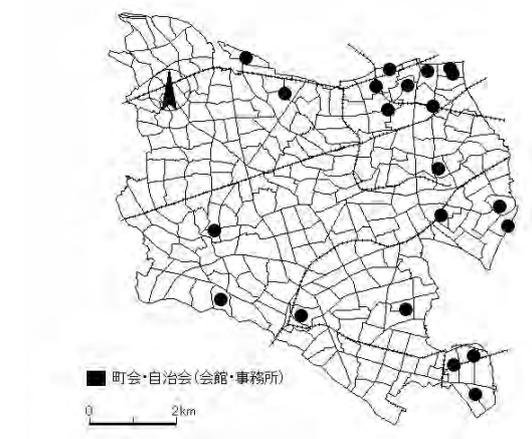


図 8 町会・自治会（町会会館・集会所など）の活用

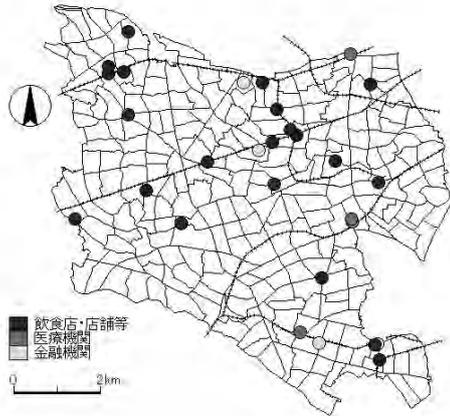


図 9 飲食店など店舗の活用

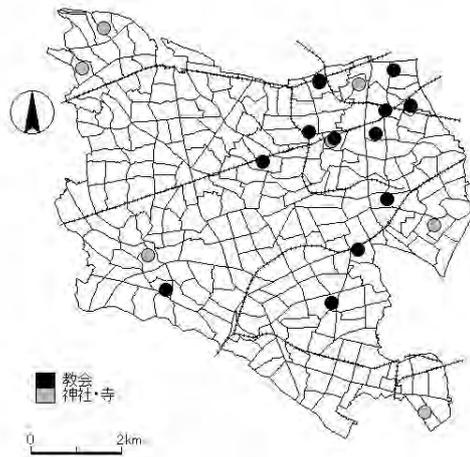


図 10 宗教施設（神社・寺・教会）の活用

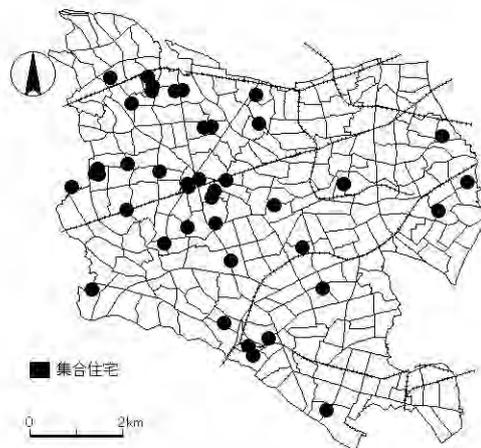


図 11 集合住宅の活用

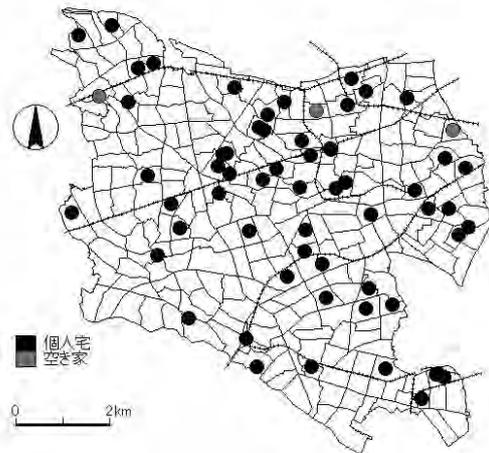


図 12 個人宅の活用

#### 4. 今後の展望

令和 4 年度は小さなまちの拠点に該当すると考えられる区内の活動拠点についてデータベースを整備している。本報告ではデータベースの活用事例として小さなまちの拠点が運営されている「場」に着目し、「場」のタイプを整理するとともに、GIS ソフトの MANDARA によるマッピングを紹介した。区内では「小さなまちの拠点」に該当する様々なタイプの活動が行われていることが分かっている。本稿で扱った拠点以外にも、区が把握しうる拠点の網羅的な調査を行い、データベース化を図ることが必要である。

たとえば、データベースに基づき、町丁目ごとの年少人口割合や高齢化率、単身世帯割合などの統計データと拠点情報を地図上で重ね合わせることで、各地域の特徴を明らかにすることなども可能である。

本データベースは今後オープンデータとしての活用を想定し、地域資源の活用と充実に資することができるよう、庁内にとどまらず、今後誰でもアクセス可能な状態で公開していきたいと考えている。

#### 付記

本報告に用いた地図は、フリーソフト「MANDARA」を用いて作成した。

[文献]

総務省情報流通行政局地域通信振興課地方情報課推進室, 2019, 『地方公共団体におけるデータ利活用ガイドブック Ver.2.0』

谷謙二, 2013, 『MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座 第3版 一地図化すると見えてくる一』(株)古今書院.

谷謙二, 2018, 『フリーGIS ソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』(株)古今書院.

橘弘志・高橋鷹志, 1997, 「地域に展開される高齢者の行動環境に関する研究一大規模団地と既成市街地におけるケーススタディー」『日本建築学会計画系論文集』

東京大学空間情報科学研究センターCSV アドレスマッチングサービス (geocoding Tools & Utilities, <http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/>) (2022.1.24 時点)